

202510.16 (木)  
第 15 回例会  
(通算3824回)

# 2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会 長 荒井 剛  
副 会 長 池田 一己  
幹 事 横田 英喜  
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ～ 13:30 夜間例会 18:00  
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル  
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F  
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度  
国際ロータリーテーマ

『よいことのために 手を取りあおう』  
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度  
RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ  
第 2500 地区ガバナー  
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム 米山月間にちなんで (米山記念奨学会委員会)

次週例会 地区補助金事業報告 (社会奉仕委員会)

■ロータリーソング：我らの生業 ■ソングリーダー：水口 喜文君

■会員数 107 名

■ビジター 第 2500 地区米山奨学金運営委員会委員長 帰山哲雄君 (北見ロータリークラブ)  
同委員 長平 圭太君 (帯広西ロータリークラブ)  
米山奨学生 テリゲルさん (内モンゴル・北見工業大学)

## 会長の時間 荒井 剛会長



皆さん、こんにちは。今日の会長挨拶ですけれども、今月 10 月は、経済と地域社会の発展月間となっておりますので、地域経済

について話したいなと思ってはいるのですが、明るい口調で少し暗い話になります。

何の話かという『DV』って聞いたことがありますよね。ドメスティック・バイオレンス、家庭内暴力という話です。これが少しずつ増えていますよという話なのです。

『DV防止法』は 2001 年に成立したのですが、相談の件数が右肩上がりに上がっています。令和 2 年のコロナの時に急増しました。それは仕事に出なくなって、家庭にこもったことがきっかけで家庭内暴力の件数、相談があって。それに伴うコロナ離婚だとも言われたりしたのですが、DV の件数が増えました。コロナが明けて一旦、少し下がります。下がっていたのですが、ここ数年、また上がってきています。実は去年の件数が一番多いのです。背景としては、景気が良くないことがかなり大きな問題なのではないかなと思います。警視庁の発表している件数もカウントの仕方がいろいろあるのですが、去年が一番多い。北海道も一番多いと。

カウントの仕方がどうして問題になるかというと、

2001 年に成立した DV 防止法ですが、最初は、結婚している夫婦間だけで、命に係わる物理的な暴力だけが対象だったのです。それが、徐々にいろいろ改正されていって、その後は、元配偶者でも対象になり、今は、結婚していないけど、内縁まで至っていない恋人で同居をしていることが前提ですけども、同居をしている恋人であれば、そういう DV があったなら DV 防止法の対象になりますよという対象者の拡大があります。

最初は、物理的に殴る蹴るの暴力だったのが、言葉の暴力も含まれるようになっていきます。言葉の暴力も最初は、「殺すぞ」とか命にかかわるような暴力が対象でしたが、最近はそこまでじゃなくて、モラルハラスメント的な「どうなるか、分かるか」とか、命にかかわらないけども、かなり精神的に追い詰めるような言葉の暴力も対象になっています。

こういうのが対象になっているから、相談件数もカウントされて件数が一気に増えています。とはいえ、件数がどんどん増えています。

皆さん、女性の被害者と男性の被害者の比率わかりますか。だいたい女性がやられているというイメージなのですが、僕がちょっと意外だなと思ったのは、2 ～ 3 割が男性なのです。私も弁護士の仕事柄、そういう相談も扱ったこともあるし、事件も扱ったことがあります。申し立てられた側、申し立てられる側どちらもあるのですが、3 割ほど男性が被害を受けています。その件数がちょっとずつ増えています。

こんな暗い話をして終わるつもりはないのですが

も、このDVの関係で私が何を言いたいかというと、この『ロータリーの友』9月号の記事に載っていたのが、オーストラリアのバリナ オンリッチモンドロータリークラブです。そこはシドニーからだいぶ離れた所です。

5年ぐらい前ですが、当時の会長エレクトの友人の妹さんが、子どもたち3人がいる前で殺されてしまったという事件に遭遇しました。その会長エレクトが「これは何とかしないといけない。こんな町だったらみんな安心して住めないじゃないか。どうしたものか」ということで、理事会に「DVの撲滅キャンペーンを一年間だけやろう」という提案をして、一部反対があったものの一年しかやらないからということで進めたらいいのです。

どんなキャンペーンをしたのかというと、女性に対する暴力撲滅運動のシンボルとなっているのが紫色をシンボルとしたパープルリボンと言われているものですが、「紫色のシャツを着て『DV撲滅しましょう』と、みんなで歩こう」とみたいな話をして、そういう啓蒙活動を警察、行政、地域の高校生に話をしたら、高校生が割と参加して500人ぐらいでパレードを1年に1回行いました。

それが取り上げられて、それから毎年イベントとして行われるようになりました。それがさらに拡大して今は、毎週金曜日になったら歩くわけではないけども、紫のシャツを着ている人が町中に溢れるぐらいのイベントになっています。

その結果、DVに対する皆さんの周知だったり、相談をしやすい環境になったり、件数も減っているのですが、認知する件数が増えたので、そういう意味で「地域が安全になってよかった」という活動が取り上げられて、その後、オーストラリアのそのエリアに所属する19人の地区ガバナーが「この事業はいいね」と地区の事業として取り上げて、同じような事業をやっているそうです。

その結果、地域の安全に資するし、もうひとつは、クラブが5年前に活動し始めた時は33人だったのが、1年後に58人、今は88人ぐらいに一気に増えたという素晴らしい内容だったのです。

経済と地域社会の発展月間にちなんだエピソードとして、かつ、ロータリークラブの活動として、こういうのがありましたよ、とご紹介して今日の会長挨拶とさせていただきます。

ありがとうございます。

#### 幹事報告 横田 英喜幹事

『ロータリーの友』が届いておりますので、皆さんのパーソナルボックスに入れましたので、ご覧いただければと思います。

続きまして、来週の金土日に地区大会が開催されます。

土曜日の午前9時15分に国際交流センターで釧路クラブの写真撮影を行いますので、それより前に来ていただければと思います。よろしくお願いいたします。その前の日、9月24日金曜日は『世界ポリオデー』になります。地区の事業としてのポリオデーで、このホテルからMOOまで、集団でポリオのTシャツを着ながら歩きましょうというイベントがあります。それにクラブからの参加も要請されておりますので、時間のある方は参加していただければと思います。時間は、16時20分から17時までの参加になりますので、よろしくお願いいたします。

10月は米山月間となりますので、今日、地区から来ていただいております米山の委員長帰山さんとテリゲルさんに講演していただきますが、その最中ではありませんが、こちらの米山月間の寄付の募金箱を回させていただきますので、皆さまご協力をよろしくお願いいたします。

#### ■本日のプログラム■

米山月間にちなんで

#### 米山記念奨学会委員会 米本 富夫委員長

米山記念奨学会委員長の米本です。

本日は「米山月間にちなんで」ということで、過去に釧路ロータリークラブが米山奨学生を受け入れてまいりました



が、新しいメンバーの皆さんには、記念奨学会とはどういうものか分からないという方が多くいるということから今回、この例会を開催させていただきました。

本日の例会では、RI 2500地区の米山記念奨学会運営委員会運営委員長で北見ロータリークラブの帰山哲雄さん、同じく運営委員の帯広西ロータリークラブの長平圭太君、そして、米山奨学生であります北見工業大学大学院博士課程のテリゲルさんをお迎えしております。

最初にテリゲルさんより自己紹介と来日してからの奨学生としての生活をお話ししていただきます。そのあとに、帰山委員長より2500地区の奨学生の現状と米山記念奨学会運営委員会の内容と活動報告をしていただきます。

それでは、テリゲルさん、よろしくお願いいたします。

## 米山奨学生・北見工大 テリゲルさん



皆さん、こんにちは。本日はお招きいただき誠にありがとうございます。ただいまご紹介いただきました米山奨学生のテリゲルと

申します。現在は北見工業大学の博士後期課程でバイオ化学を勉強しています。こんなに大勢の経験豊かな皆さんの前で話してできるなんて夢のようで、とても光栄です。緊張でドキドキしていますが、どうか温かく見守っていただきますとすごく嬉しいです。

本日は、「伝統と最先端を繋ぐ医師から研究者への挑戦」と題して、私のこれまでの歩みと未来への思いをお話させていただきます。

最初は私のルーツです。私の故郷からご紹介します。私の故郷は内モンゴルです。内モンゴルは、中国の北部を東西に長く伸びる高原で、モンゴル国の南に位置するモンゴル族の自治区です。首都はフフホト、内モンゴルの面積は120平方kmで、中国の面積の約12分の1です。人口は、2024年までは約2400万人で、その内、モンゴル民族は600万人で、世界で最も多くのモンゴル族が住む地域です。公用語は中国語とモンゴル語で、モンゴル伝統文字が使われています。こちらがモンゴル伝統文字で、縦書き、左から右に読みます。意味は、内モンゴル自治区です。

これは内モンゴルの景色です。内モンゴルの東側は草原と山が多いです。こっちがフルンボイル草原といって中国で一番広い草原です。これは自然が作った奇岩、モンゴル語で石の林と呼ばれています。

下の場所は私の実家の近くで、映画のロケ地になった所です。内モンゴルの西側は砂漠地帯です。こちらが首都のフフホトです。英語でHohhotと書いています。フフホトはモンゴル語で青い街という意味で、山の麓にあって、とても綺麗な街です。

小さなハートマークがある所が私の実家、ウランハダです。私の家は草原にあります。モンゴルといえばゲルに住んで、馬に乗る遊牧民のイメージが強いですが、でも実は、今の内モンゴルの遊牧民のほとんどは遊牧をしていなくて、定住しています。北海道の牧場のように柵で囲われた土地があって、普通の家に住んでビジネスとして牧場を営んでいます。

この写真は、私の家で毎日見られる景色です。私の家には羊がたくさんいて、馬もいます。子羊もいて、年老いた犬もいます。彼はもう半分家族みたいなものです。

こちらは私の家族です。真ん中でモンゴルの民族衣装を着ているのは父と母、そして兄の家族です。こちらが父で、馬が大好きで今は退職して、時々競馬をして

います。こちらが母です。この前、一緒に旅行した時に私が撮った写真です。こちらが兄の家族です。兄は公務員で兄嫁は看護師、私の甥は今年幼稚園に入っています。

次に自己紹介をさせていただきます。私のモンゴル語の名前はテリゲルといって、満月という意味です。歴史的にはモンゴル人は姓がなく、種族名がありました。私の種族名はヘリです。誕生日は1994年の12月28日、星座は山羊座で血液型A B型です。趣味はダンスで、学生時代には何度もダンスコンテストに出場しました。絵を描くことも好きで、特にスタジオジブリの絵を描くのが大好きです。それ以外にも以前はマラソン大会やアーチェリー部にも参加していました。普段は、風景写真を撮るのが好きで、時間がある時は小説や心理学の関連書を読むのが好きです。

これは前に鉛筆で描いたジブリ作品です。一番好きな映画は『魔女の宅急便』なので、それをたくさん描いていました。

次に、これまでの学びについてお話しします。2006年に小学校を卒業するまで地元の学校に4回、2009年の中学1年で首都の学校に移りました。その後、2012年から17年まで内モンゴル医科大学で学部課程を履修して、2017年から20年まで修士課程を修了しました。卒業後は病院で1年余り働きました。そして、2023年の春、北見工業大学の博士課程に進学し、今に至ります。

私の小さい時からの夢は、医者になることです。祖父がモンゴル医学の医者だったので、家には医学関係の本や器具がたくさんあり、それがとても神秘的だと思っていました。だから、私の大学と大学院での専門はモンゴル医学でした。モンゴル医学は7世紀に起源し、自然と人間の調和に基づく伝統医療で、世界で初めて飲食と健康の関係を体系化しました。天然材料を用いた副作用の少ない薬物医療、高い効果と安全性で広く注目を集めています。在学中には、病院での実習や研究室での実験に加えて、多数の国内学会に参加し発表しました。

これは上海であった伝統医学と現代医学の国際会議に参加した時です。これは大学院で新型動物モデルを研究して取得した特許です。仕事をしている間に日常の業務に加えて、内モンゴルの医学テレビ番組に出演して、モンゴル医学を宣伝したりし、交流会にも参加しました。

この真ん中の写真は私がインタビューを受けている写真です。これは北京で開催されたトレードショーでモンゴル医学を紹介している時。まだコロナの時、最前線で防疫活動にも参加しました。

ここからが私の転機です。病院で多くの患者さんと接する中で、現代医学で根治の難しい慢性疾患に伝統医学が有効であることを実感しました。しかし、症状の

みの治療では不十分であり、病気の根本的なメカニズムに迫らねばならないという壁にぶつかりました。つまり、必要なのは、なぜ効くのかを科学的に解き明かすこと、すなわち伝統医学と現代医学を結ぶ橋を架けることだと気づいたのです。これが私の旅の転機となったのです。

日本に留学する目的は、世界をリードする生命科学、感冒医学とモンゴル医学の融合に潜む可能性、そして厳粛な学術環境。北海道は多様な北方系植物を育てており、汚染の影響が少ないため、高品質な植物サンプルの採取が可能です。大学院の先生は、北見工業大学のご出身で、先生のご推薦により幸いにも現在の研究室に身を置くことになりました。

次は私の挑戦と探求。まずは、私の留学生活についてです。

北見に来たばかりの時は、まだ雪が真っ白に積もる冬でした。あれは、私が今までに見た中で一番の大雪で、内モンゴルの雪よりも厚く柔らかかったのです。本に書いてある『銀世界』という言葉の意味を初めて実感しました。ここでのたくさんの美しい思い出が詰まっているので私にとって、故郷を除けば一番温かい存在です。

これは私が撮った北見の写真です。この期間、北見ばんちまつり、北見厳寒の焼肉まつり、茶道の体験とかいろいろな日本の文化を感じるとともに、スキー体験や留学生の夕べでのモンゴル舞踊の披露、ハロウィンパーティーなど、世界中から集まった学生たちとの協力を通じて貴重な経験ができました。

研究室の懇親会、道東五大大学ダンス合同発表会、北見でのモンゴル新年の夕べ、バーベキュー懇親会、バドミントン活動などのいろいろなサークルに参加したおかげで語学力も人と関わる力もすごく伸びたと実感しています。

次は最先端科学の探求について。私の研究は培養食品栄養科学です。いま行っている研究は、天然の食用植物、北海道産の菩提樹ハチミツとフェネルを用いて免疫細胞の体外実験を行い、抗アレルギー炎症効果を検証しています。

この間にこの研究に基づいて、私の母校である内モンゴル医科大学との学術交流会、札幌で開催された日本農芸化学会、大学での研究会などの国内外の学会に多数参加して、ポスター発表および口頭発表をしました。これらを通じて関連分野の最先端研究動向を学び、学術交流を深めることができました。

次はロータリーと私についてです。私から見たロータリー。最初、私のロータリー理解は、経済的支援を提供し、留学の夢を実現してくれる組織という程度の認識でした。でも、この半年で私はロータリークラブの例会、市民植樹祭、それに素敵な浴衣をいただいた納涼夜間例会、ポリオ撲滅運動、カウンセラー研究会な

どに参加したりして、ロータリークラブや他の奨学生と交流を重ねていくうちに、その考え方は変わり始めました。

ロータリーは単なる資金の提供者ではなく、お時間を割いて私たちと向き合ってくれ、指導してくれるとともに、温かい心遣いも感じられました。ロータリーがくれた私の成長は、ひとつの文化の視点から抜け出せたことで、さまざまな文化や考え方、行動の違いを理解し、それを尊重できるようになったと思います。ロータリーの超私のサービスから大きな影響を受けて、以前の自分本位な考え方から社会貢献という視点で自然に頭に浮かぶようになってきました。ロータリーでの活躍を通じて、さまざまな分野で活躍するすごい人たちに会えて、温かく支えてくれるコミュニティの一員にもなれました。年上の方とか立場の違う人とでも対等に誠実に向き合っていて関係を築く大切さを学びました。

最後は私の理想、研究ビジョンについてです。

ひとつ目は学んできた実験、技術を活用して内モンゴルと北海道地域で食薬同源の食材について、成分解析と作用メカニズムの解明を行いたいです。あとは研究成果を元に免疫疾患、アレルギーなどや現代的な健康問題にアプローチする機能性食品、栄養補助食品、または特別用途食品を開発していきたいと考えています。

社会に出る若者として自分の視野には、まだまだ限界があると強く感じています。だからこそ、これからはロータリークラブに携わり続けて、絶えず学びながら視野を広げて、将来もっと効果的に社会に貢献できる人間になりたいと願っています。

ロータリークラブの世界中的なネットワークは、私たち若者にとって知識を行動に移す最後の場だと思っています。こんな大きなプラットフォームを借りて、最も多くの社会貢献や自己実現の可能性を探求できる機会に心から憧れています。

本日の卓話は以上となります。最後までご清聴いただき、誠にありがとうございました。

## 第 2500 地区米山奨学金運営委員会

### 帰山 哲雄委員長



皆さん、こんにちは。私からは米山記念奨学会運営委員会の活動を簡単に説明させていただきます。

当委員会は年間の活動はこのようなっております。基本的には、12月に留学生を奨学生として迎え入れるための面接を行います。そして、4月にオリエンテーションを開催して、

7月にセミナーを行います。9月には例年、地区大会で奨学生の活動発表をステージ上でさせていただいておりますが、今回は設えが変わっております。

いま 2500 地区で受け入れている奨学生の人数は 10 名です。昨年から継続の奨学生は 4 名、新規で受け入れた奨学生は 6 名です。受け入れていただいているクラブはこのようになっています。北見、釧路、帯広、旭川が多いです。大学がある都市がこの地区なので、どうしてもこのクラブになってきております。このほかに、世話子クラブ制度がありまして各クラブの下に奨学生をサブで受け入れていただく制度があります。そういうロータリークラブもあります。

奨学生の母国です。今年度はご覧のとおり、インドネシア、エジプト、韓国、中国、モンゴル、モザンビークとなっております。

世話子クラブ。旭川であれば士別ロータリークラブに 3 人引き受けていただいております。僕が所属の北見ロータリークラブの子クラブは留辺蘂ロータリークラブです。このような依頼を当委員会からお願いしております。

こちらは横田幹事から「釧路で米山奨学生を復活するにはどうしたらいいか」とご相談をいただきました。奨学生の条件としては、この地域の大学、専門学校に自費で留学していて、当委員会の 12 月の面接に応募していただくのが条件になります。その中で面接に合格すると釧路地区のロータリークラブさんに受け入れ依頼のお願いをしております。

寄付金です。普通寄付金と特別寄付金があります。個人で寄付していただく場合と企業・法人として寄付し

ていただく 2 種類があります。こちらは免税の対象もありますのでご協力いただければと思います。簡単ですが以上です。よろしくお願いいたします。

## 会長謝辞

### 荒井 剛会長

帰山さん、テリゲルさん、本日は北見からお越しいただきありがとうございます。

テリゲルさんは内モンゴルから北見にいられていて、お話を聞いて充実した留学生活をされているのだなと思いました。優秀な方だなとも思いました。

将来、アレルギーの根本的な原因などを学んで、その対処療法とかを見つけていただきたいと思います。今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。

帰山さんも北見からお越しいただいて、時間が短くなってすみません。ご説明いただきありがとうございました。

本日はありがとうございました。

## 本日のニコニコ献金

■帰山 哲雄君（第 2500 地区米山奨学金運営委員会委員長）

■荒井 剛君 東釧路駅に防犯灯を設置する事業を行い、釧路新聞に取り上げて頂きました。  
この事業に尽力頂いた舟木君に改めて感謝致します。

■横田 英喜君 地区補助金事業の湿原ツアーに楽しく参加させて頂きました。ありがとうございます。

今年度累計 89,000 円